

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法			17345	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

- ・心理学における調査法の基本的な考え方を理解する。
- ・実際に調査を行い、得られたデータを統計的な解析に持ち込み、評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を身につける。
- ・このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

授業の概要

心理学研究法のとりわけ調査法について、統計的な手法を用い、データ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。論文などの具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法について、問題の設定、質問紙の作成、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。また、その際に必要な研究倫理についても学ぶ。

授業計画

- 1 質問紙法による人間理解:心理学の各研究法の特徴について学ぶ
- 2 質問紙作成の基礎:心理学の各研究法の特徴と各研究法の長所と短所について、比較しながら学ぶ
- 3 質問紙法の実施方法①:項目作成の基礎と、回答方法の種類について学ぶ
- 4 質問紙法の実施方法②:質問紙法の実施法、特にサンプリングの方法について学ぶ
- 5 質問紙法の実施方法③:質問紙法の実施法の種類と長所・短所、また研究における倫理などについても学ぶ
- 6 コーディングと入力:コーディングと入力の仕方について学ぶ
- 7 心理尺度の作成:心理尺度の作成と、尺度の信頼性と妥当性について学ぶ
- 8 量的資料収集のための質問紙作成:量的資料収集のための質問紙の作成について学ぶ
- 9 質的資料収集のための質問紙作成:質的資料収集のための質問紙の作成、文章完成法と自由記述法を学ぶ
- 10 心理尺度の作成:項目分析と信頼性と妥当性の検討について学ぶ
- 11 データの処理法①質的データの集計:実際のデータを用いながら、質的データの取り扱いについて学ぶ
- 12 データの処理法②平均値の比較:平均値の比較について、t検定を

学ぶ

- 13 データの処理法③相関分析:相関分析について学ぶ
- 14 質問紙法の実践:質問紙法の実践について学ぶ

- 15 質問紙法のまとめ:授業の振り返り、まとめを行う

授業の方法

単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順を教科書を中心に、レジュメ等の資料を用いて講義形式で学習を進める。

準備学修

webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル質問紙法 北大路書房

留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。授業はテキストに沿って進めるため、テキストを購入すること。

教員連絡先

niimi@kaisei.ac.jp

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習（心理テスト法）			17375	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	1	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心理臨床現場（保健所、児童相談所、病院など）における幼児期の発達状況を捉え発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被検査者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1 はじめに 心理テスト概論
- 2 心理検査法実習の復習
- 3 P-Fスタディ①
- 4 P-Fスタディ②
- 5 文章完成法 SCT
- 6 内田クレペリン作業検査
- 7 新版K式発達検査④
- 8 新版K式発達検査⑤
- 9 WISC知能検査④
- 10 WISC知能検査⑤
- 11 バウムテスト
- 12 風景構成法
- 13 スクイグル法
- 14 箱庭療法①
- 15 箱庭療法②・統括・期末テスト

授業の方法

実習形式で行い、検査結果を分析し、所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

テキスト

授業中に資料配布する。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

定員20名までとし、超過する場合は資格取得予定者を優先する。レポート課題の提出は、実習の翌週とする。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

- 1 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
- 2 保育士・教師としてできる個別配慮
- 3 介助者が加わったときの役割
- 4 室内トラブルへの対応その1 解決のポイント
- 5 室内トラブルへの対応その2 立ち歩きやエスケープ
- 6 室内トラブルへの対応その3 人間関係のトラブル
- 7 室内トラブルへの対応その4 パニックを起こしたときの対処
- 8 保護者とともに子どもを育てるその1 保護者面談の進め方
- 9 保護者とともに子どもを育てるその2 親から学ぶ支援のあり方
- 10 周りの子どもやその保護者への対応その1 周辺の子ども
- 11 周りの子どもやその保護者への対応その2 保護者に対して
- 12 チーム支援その1 確かな情報を共有する
- 13 チーム支援その2 実態の把握方法
- 14 チーム支援その3 組織的支援の進め方
- 15 学校・園に合ったチェックリストを作成

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グルーブトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
福祉心理学			17543	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2	認知症専門病院の心理判定士、児童養護施設・児童心理治療施設の主任セラピスト、臨床心理士・公認心理師			

授業の到達目標

- ・福祉心理学関連の法・制度・用語を理解できる。
- ・福祉現場において生じる問題及びその背景について理解できる。
- ・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。
- ・虐待についての基本的知識を身につける。
- ・このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのS（奉仕）とE（倫理）を養う。

授業の概要

福祉心理学の分野は幅広く支援対象者もさまざまであり、必要となる支援内容も多岐にわたる。しかし人の安全・安心を保障し、安定した生活へと支援していくという点では共通している。このクラスでは福祉領域における心理臨床について、まずは福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を総論的に学び、その後福祉心理学的心理支援の実践について実践内容を中心に学ぶ。その中で虐待をはじめとする福祉現場における心理社会的課題や必要な支援、さらには福祉現場で生じる問題とその背景についても理解し、実践的知識を身につける。

授業計画

- 1 第1章 社会福祉の展開と心理支援
- 2 第2章 総論：生活を支える心理支援
- 3 第3章 暴力被害者への心理支援
- 4 第4章 高齢者への心理支援
- 5 第5章 障害・疾病のある人への心理支援
- 6 第6章 生活困窮・貧困者への心理支援
- 7 第7章 児童虐待への心理支援の実践
- 8 第8章 子どもと親への心理支援の実践
- 9 第9章 認知症高齢者の心理支援の実践
- 10 第10章 ひきこもり・自殺予防の心理支援の実践
- 11 第11章 精神障害者への心理支援の実践
- 12 第12章 家族・職員への心理支援の実践
- 13 第13章 福祉分野での多職種協働と心理職の位置づけ
- 14 第14章 多職種協働実践事例報告
- 15 福祉心理学のまとめ

授業の方法

授業は基本的に各章のテキストの内容に沿って講義形式で進める。福祉現場への理解を深めるため、適宜レジュメを配布し、実践的知識の習得を目指す。

準備学修

webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

野島一彦・繁樹算男 監修 中島健一 編 2018 公認心理師の基礎と実践⑩ 福祉心理学 遠見書房

留意事項

講義は基本的にテキストの各章の内容に沿って行う。テキストを購入すること。

教員連絡先

niimi@kaisei.ac.jp